

実習日：平成 28 年度第 I 期 7 月 13 日

実習先：西田病院

大学名：長崎国際大学薬学部 5 年

氏名： 柴田里奈

今回、ゆふみ病院を見学させていただいて、以前なら、ホスピスはがん末期の患者さんが来て、そこで生活をしながら一生を終えていくと言う様な解釈しかありませんでした。しかし実際には、患者さんによっては施設と貴院を行き来し、症状が良くなれば家にも帰ることがあるそうでした。

実習では患者さんのもとへと服薬指導を行う薬剤師さんに同行させていただきました。服薬指導とは患者さんに分かりやすく薬を説明し、それを理解してもらうこと、その他聞き出しながら患者さんとのコミュニケーションもとるが、薬についての話が長いものだと思っていました。

しかし、貴院での服薬指導は薬の説明の後に薬以外の、患者さんのご家族やペットの話を会話の中にたくさん盛り込み、患者さんが話しやすい状況を作る。その中で薬が効いていることを伝え、これからしたいことなどを会話の中で患者さんから聞き出していました。

一人の患者さんに対しての服薬指導が長く、患者さんからしても服薬指導とは思わないのでは、というくらいに楽しそうに患者さんについての話を沢山されていました。

驚いたことは、患者さんの中には激しい痛みから疼痛コントロールを行い、うまく疼痛が軽減できた患者さんがこれからのことについて考えていたことです。今回話を聞かせていただいた患者さんは、旅行に行きたいと仰っていました。過去には海外にも行った患者さんがいると知り、その最後まで人間らしく、その人らしく楽しく生きていこうとする姿が私にはとても格好良く見えました。

今回の実習で、患者さんの立場になって考えることがいかに大事であるか知り、今の自分ではどれくらいその立場になって考えられるかと言ったら、些細なものだということも痛感しました。恥ずかしがらずにもっと沢山の患者さんと会話出来たらよかったのにと今更ながら思いました。

今回貴重な体験をさせていただき、学ぶものも沢山ありました、ありがとうございました。